

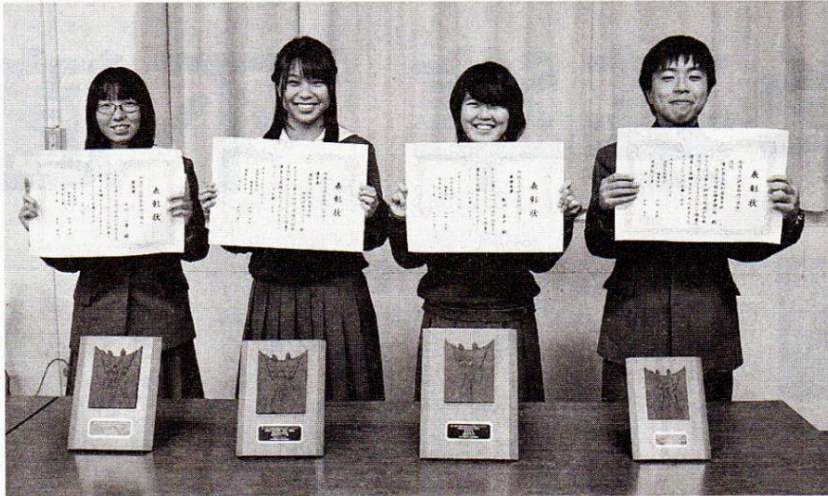
國學院大学・高校生新聞社主催

第14回「地域の伝承文化に学ぶコンテスト」

の結果が新聞掲載されました

平成30年12月15日(土) 毎日新聞朝刊 あいち版

※毎日新聞掲載許諾済



コンテストで入賞した(右から)澤井さん、飯田さん、伊藤さん、木村さん。稲沢市の杏和高校で

杏和高の生徒入賞

伝承文化コンテスト

「聞き取り」大切さ学ぶ

県立杏和高(稲沢市祖父江町)の2、3年生が「第14回地域の伝承文化に学ぶコンテスト」(国学院大など主催)に参加し、2人と2グループが入賞した。地域の祭りや民話などを調べる中で学ぶ楽しさを知り、生徒らは「机

に向かうだけが勉強ではないと分かった。大学でもっと学びたい」などと語った。同校の入賞は4年連続。

コンテストは高校生自らが地域の歴史や民話、方言などを調べ論文にまとめるもの。今年も全国から700点以上の参加があり、11月中旬に結果が発表された。

地域文化研究個人部門の最優秀賞に輝いた飯田真世さん(18)は、あま市にある全国唯一の漬物の神様「萱津神社」で行われる「香の物祭」について調査。昨年は祭りの歴史を中心に調べ優秀賞を受賞していた。

今年も現在の祭りの取り組みに注目。神社婦人会が行う「香の物

の漬け直し」について調べ、伝統を守る姿を追った。飯田さんは同市に住んでいるが「知らないことが多かった。民俗学研究には聞き取りが大事だと思った」と振り返った。

同団体部門優秀賞の同校地域研究グループ(15人、代表・伊藤響さん)は、同校が5年連続で取り組む「祖父江の虫送り」がテーマ。同研究では岐阜女子大と、福知山公立大(京都府)のコンテストでも入賞を果たした。

地域民話研究個人部門優秀賞の木村心優さん(17)は稲沢市・須ヶ谷地区に江戸時代から伝わる「澤様」にまつわる民話や祭りを調査。澤様の子孫を取材するなど200年以上

語り継がれている背景に迫った。

また、旧2年3組お雑煮調べ隊(39人、代表・澤井翔太さん)はクラスのお雑煮事情を調べて地域性などを考察し、地域文化研究団体部門佳作を受賞した。

指導した小野田寛教諭(53)は「勉強の楽しさは自分で動いて考えることにある。それができたのは素晴らしいこと。そうした学びをこれからも続けてほしい」と喜んだ。同校では、来年2月に地域研究グループと飯田さんの作品の発表会を開く。
【川瀬慎一朗】